



### 野辺地の地名

野辺地の地名は、アイヌ語で野を流れる清らかな川を意味する「ヌツプベツ」から由来しているといわれています。人があまり住んでいなかったころ、緑の原野をきれいな川が流れていた情景が思い浮かびます。

### 野辺地川

縄文人が川のほとりに村をつくり暮らしていた昔から野辺地の歴史を見守ってきた野辺地川。上流を清水目川と言い、子ども達が泳いだり、魚とりをしたこともありました。今も鮭の養殖や川釣りなどで、町民に親しまれています。

### 野辺地八幡宮本殿（県重宝）

野辺地八幡宮は、四百年ほど前に建てられたと伝えられています。境内には本殿のほか金刀比羅宮と天満宮があります。今の本殿は、一七一九年に再建されたものです。江戸時代中期の神社建築様式でつくられています。

### 野辺地名誉町民

すぐれた功績を残し、町民から深く尊敬されている人に贈る「名誉町民」には、野辺地町の産業と教民に貢献した八代目野村治三郎氏、我が国の歴史研究に功績を残し、すぐれた教育者であった松本彦次郎氏、地域医療と保健衛生に寄与した鈴木逸太氏、ホタテ産業の隆盛のもととなる研究をした野村七禄氏、現代舞踊の礎を築いた江口隆哉氏・江口乙矢氏が選ばれています。

ルーツは

アイヌ語か

野辺地の地名

歴史を

つぶさに見てきた

野辺地川

老若男女が

幸せ祈る

鎮守八幡宮

我が町の誇れる

名誉町民